

SSH 生物体感校外学習（臨海実習）

科学を体感する取組として、和歌山県加太という大阪周辺の磯を訪れ、臨海実習を行いました。磯に棲む生物の様子やその生態の観察を通して、今まで見たこともない生物を発見できた生徒はもちろん、図鑑やテレビなどでしか見たことがない生物を自身の目で見て採取することができ、生物の多様性に対する理解を体験的に得ることができました。

日程：平成29年7月24日（月）

場所：和歌山県 加太 城ヶ崎

参加者：1・2年生 希望者18名、生物部員3名

付添教員2名、大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻 院生1名

事前学習

平成29年7月10日（月）に開かれた三丘セミナーにて大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻 古屋准教授より「海と生物」と題して、事前学習を行いました。地球誕生後の海の生成に始まり、生物と海との関係、棘皮動物を例に実習でも見られる生物の体制の獲得についての解説や、危険生物の紹介、磯での注意点などをご講演いただきました。



古屋准教授による講義（事前学習）

加太での研修

干潮時刻により、昼食後から観察を開始しました。実習は、参加者18名を3班に分け、生物部員を各班に1名配置し、交流や助言などを行いながら進めていきました。

転石を持ち上げてひっくり返したり、タイドプールをじっと眺めたり、魚やカニを追いかけるなど様々な生物を探しました。当初は、見つけた生物を気味悪がる生徒もいましたが、しばらくすると慣れてきて、採集容器に移してじっと観察したり、手で触って触感を確かめることができました。

開始から終了までの3時間ほどで、各班10種以上の生物を採取できました。終了後、各班の採取した生物を同定し、スケッチをして気づいたことをメモしたり、写真を撮ったりして、レポートにまとめました。最後は、事前学習で学んだように、生態系を壊さないよう持ち上げた石も元に戻しつつ生物たちを海に帰しました。



観察時の様子



採集成果の例